



知識から行動へのいざない

# 環境教育と 心理プロセス

小池俊雄 + 井上雅也 [編著]

環境問題研究会 [編]

## 目次

### はじめに 環境問題解決の糸口を探る

#### 第一部 環境問題を捉える

第一章 二十一世紀を考える視点 (小池俊雄) ..... 3

1 日本のパラダイムシフトを考える 4

2 近世ヨーロッパのパラダイムシフトを考える 8

3 歴史観から学ぶもの 13

第二章 社会・経済システムの変遷と環境問題 (宮代信夫) ..... 17

1 自然と共存した狩猟採集社会 19

2 定住農耕がもたらした環境問題 20

3 産業革命に端を発する環境問題 22

4 化学物質の脅威 27

5 限りある地球の認識 29

6 環境問題の今後の方向 32

第三章 心のあり方と環境問題 ..... 35

意識の発達と変容 (増田満)

1 環境問題を解決できる意識とは 36

2 人の意識の発達段階 40

3 環境問題を解決できる意識の発達段階 48

4 意識に変容を起こすにはどうしたらよいか 53

5 次なる段階への展望 62

個は群化するか (河野真巳)

1 コミュニティ全体の心と行動を変えるのは可能か 65

2 全体主義の危険性と理想的な群化をめざして 69

3 多様性の保障と高次元の群化を図るには 74

## 第Ⅱ部 環境教育のグランドデザイン

## 第一章 環境教育の変遷と基本理念

環境教育の変遷を俯瞰する (鈴木晃子・町田勝)

- 1 世界の環境教育の流れ 80
- 2 日本における環境教育の流れ 85
- 3 日本の環境教育の課題 88

環境教育の基本理念 (増田満)

- 1 理念の構築には世界観が必要である 98
- 2 環境教育の理念を創るために必要な世界観 100
- 3 環境問題が解決されるための必要条件とは 105
- 4 外面的側面での必要条件は見通しが立っている 106
- 5 見過ごされてきた内面的側面での必要条件 107
- 6 環境教育の基本理念 108

## 第二章 心の変容を知るために

知識から行動へのモデル化 (三阪和弘)

- 1 なぜ人は環境に配慮した行動をとれないのか 112
- 2 態度と行動の不一致を考える 115
- 3 知識と行動の不一致を考える 118
- 4 心理プロセスを整理する 120

環境配慮行動を調査する (三阪和弘)

- 1 概念的定義と操作的定義 126
- 2 調査法の特徴 127
- 3 質問紙作成の手順 130
- 4 データの整理と分析 134

環境教育プログラムの効用を分析する (三阪和弘・河野真巳・小池俊雄)

- 水俣体験学習のケーススタディー —
- 1 直接体験型の環境教育プログラムを調査する 138
  - 2 水俣での体験学習会の内容 139
  - 3 心理プロセス調査の実施 143

4	対象とする環境問題によって意識に差異がある	144
5	心理段階の相関関係から心理プロセスがみえる	146
6	参加者の意識の変容	147
7	強烈な直接体験が持つ効用	151
8	強烈な直接体験が持つ問題点	155
9	環境教育プログラムにおけるスタッフの果たす役割と組織的な取り組み	158

第三章 環境教育の実践 ..... 161

体験型環境教育プログラムの条件 (井上雅也・深田伊佐夫・鈴木晃子)

1	環境に配慮する人間の条件	163
2	環境教育プログラムの条件	167
3	環境教育プログラムの内容	170
4	具体的プログラムの中身	171
環境教育の場と里山 (井上雅也・深田伊佐夫・澤田忠信)		
1	体験学習の場としての里山	183
2	東京近郊の施設	190

環境教育の評価のあり方 (町田勝)

1	評価項目	219
2	評価の形式	220
3	評価の着眼点と評価基準	221
4	評価の事例	224
5	評価サイクルの確立へ向けて	228

環境事象および環境対策に関する年表 230

参考文献 237

筆者プロフィール 247